

1 日 目

第 2 学年 2 組 体育科学習指導案

平成26年 2月 6日 (木) 公開授業Ⅱ
 平成26年 2月 7日 (金) 公開授業Ⅰ
 会 場 2階-⑥教室(中学校体育館)
 授業者 教諭 山形 昭

1 単元名 レスキュー戦隊35レンジャー ～力試しの運動遊び～

2 本単元の価値

本単元の目標は、次の通りである。

「押す動き」「引く動き」を取り入れた運動遊びを通して、自分に合った動きのこつを見だし、手や背中に体重をかけるように足腰に力を入れたり、腰を落としたりして押ししたり引いたりする動きを身に付けることができる。

本単元では、多様な動きをつくる運動遊びの中の(エ)力試しの運動遊びを取り上げる。ここでは、ただ押ししたり引いたりするだけでなく、姿勢を変え重心を低くして押ししたり引いたりする動きを身に付けさせる。

これまでの授業では、子どもが夢中になって運動遊びに取り組む結果として多様な動きの獲得につながるように、様々な運動場面を設定してきた。しかし、それだけでは、楽しんで運動する姿は見られるものの、「やったぞ」「できたよ」という課題を解決した喜びや成就感を味わいにくかった。それは、「動きを身に付ける」ことが目標ではなく、結果として身に付けることを狙っている授業であるが故に、子どもが「動きを身に付けたい」「できるようになりたい」という目的意識が弱かったからである。「もっとできるようになりたい」という子どもの願いを大切に、「できた」という思いを実感できる授業づくりが重要である。

そこで、本単元では「押す動き」「引く動き」に焦点を当て、その動きの中でも「押し続ける動き」「押し出す動き」「引き続ける動き」「引き寄せる動き」などの多様な動きのできる4種類の場を設定し、低学年でもできる課題解決的な学習を通して「押す動き」「引く動き」を身に付けさせる。

また、課題解決的な学習として、思考・判断「イ 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見付けること」の能力を養うことを試みる。それは、動きを身に付けるための「動きのこつ」を、友達の動きのこつを基にして、自分の課題と照らし合わせて見いだす力を身に付けさせるのである。この力を身に付けた子どもは、他の運動場面でも自分の課題とその運動における動きのこつとを関係付けて考えようとする態度が養われ、友達のよい動きを基に、自分の動きを高めたり、身に付けたりすることができるようになる。これが、生涯にわたって運動に親しむことにつながっていくのである。

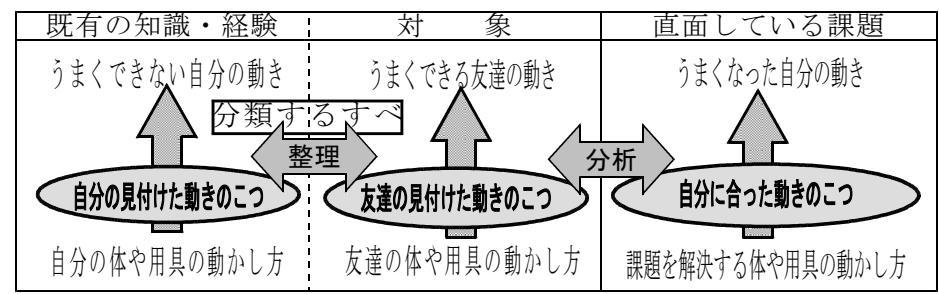
3 本単元で目指す姿と学びをつなぐ場面、考えるすべ

本単元では、「押す動き」「引く動き」を取り入れた運動遊びを通して、自分に合った動きのこつを見だし、「押す動き」「引く動き」を身に付ける子どもを目指す。この姿に迫るために大切なのが、「自分に合った動きのこつ」をいかにして見いださせるかである。そのために、「動きのカルテ」を使う。「動きのカルテ」とは、動きのこつの基となる体や用具の動かし方の視点を示した学習カードである。

この「動きのカルテ」を使って、自分の見付けた動きのこつと友達の見付けた動きのこつとを分類するすべを使って、共通点や相違点を整理させ、自分の課題に気付かせる。そして、友達の見付けた動きのこつの中から自分に合いそうな動きのこつを分析させ、自分に合った動きのこつを見いださせるのである。

このように、自分に合った動きのこつを見いだす場面を、本単元における学びをつなぐ場面とする。

学びをつなぐ際の構造図



この学びをつなぐ力こそ、学習指導要領の「友達のよい動きを見付ける」という思考力・判断力と合致していると考え。

4 指導の構想

子どもの学習意欲を高めるために、ヒーロー戦隊の音楽を流しながら、「レスキュー戦隊35レンジャーになり、世界の人々を救おう」と投げ掛ける。教師が体型等を考慮して意図的につくったペアやトリオで、4つのレンジャーゾーンに挑戦させる。4つのレンジャーゾーンは、教師が子どもに身に付けさせたい「押し続ける動き」「押し出す動き」「引き続ける動き」「引き寄せる動き」を取り入れた運動遊びをする場である。このときの子どもは、運動遊びを夢中で運動に取り組んでいるため、どうやったらうまく力を出すことができるのかなどと意識していない。

レッドレンジャーゾーン【跳び箱押し】

・重い跳び箱を押す

ブルーレンジャーゾーン【段ボール押し出し】

・少し重い段ボールを押し出す

グリーンレンジャーゾーン【跳び箱引き】

・跳び箱に友達を入れて、紐で引っ張る

イエローレンジャーゾーン【跳び箱引き寄せ】

・跳び箱1段に友達を乗せて、それに付けた紐をたぐり寄せる

働き掛け1

「押し続ける動き」「押し出す動き」「引き続ける動き」「引き寄せる動き」をする4つのレンジャーゾーンで、早さや距離などを測定させる。

子どもの学習意欲を高めるために、4つのレンジャーゾーンで早さや距離などを測定させる。4つのレンジャーゾーンでの運動遊びの行い方を知り、夢中で遊んでいる子どもに評価を伝えることで、子どもは「もっと素早くできるようになりたい」「もっと長い距離に伸ばしたい」など、もっとうまく力を出せるようになりたいと学習する意欲を高める。しかし、学習意欲を高めてはいるものの、具体的にどうすれば動きが上達するのかは分かっていない。

働き掛け2（1日目）

動きのカルテを提示し、動きの上達方法を問う。

自分の体や用具の動かし方に着目させ、具体的な改善策を見いださせるために、「どうしたらもっとうまくできるようになるかな」と問い、図1のような「動きのカルテ」を記述させる。動きのこの基となる体や用具の動かし方を視点として示しておき、その他の体の動かし方について気付いたことは「そのほかのこつ」に記述させる。子どもは「動きのカルテ」に示された体や用具の動かし方を運動しながら確かめていく。こうして、自分の体や用具の動かし方に着目させながら、友達の動きに働き掛ける視点を与えておく。

図1・動きのカルテ

【ひじ】	のぼす	まげる	そのた（ ）
【ひじ】	まっすぐ	ななめに	そのた（ ）
	立てる	かたむける	
【こし】	のぼす	まげる	そのた（ ）
【あし】	とじる	ひろげる	そのた（ ）
	そのほかのこつ		

さらに、「押す動き」の場であるレッドレンジャーゾーンとブルーレンジャーゾーンの間と、「引く動き」の場であるグリーンレンジャーゾーンとイエローレンジャーゾーンの間、拡大した「動きのカルテ」を掲示し、自分で見付けたこつにシールを貼ったり、付箋に書かせて貼ったりさせる。友達の見付けたこつに目を向けさせるためである。

働き掛け3（1日目）

「押す動き」と「引く動き」の2つのカルテを提示し、2つのカルテの共通点や相違点を基にさせて、自分の課題を問う。

様々な「押す動き」「引く動き」のこつを収集させて、自分に合った動きのこつを見いださせる手掛かりをつくるために、働き掛け2で書いた「押す動き」と「引く動き」の2つの拡大カルテを提示し、「動きのカルテ」を書いて見付けたこつを問う。子どもは、動きのカルテで丸を付けたところやその他に発見した体や用具の動かし方について発表する。そのとき、具体的な体や用具の動かし方、動かし方の程度を問い返す。子どもは、動きのカルテよりも体や用具の動かし方、動かし方の程度を詳しく説明する。

その後、「押す動き」のカルテと「引く動き」のカルテの共通点や相違点を問う。子どもは、働き掛け2で得た体や用具の動かし方を視点に、様々なこつやシールの数などの情報を基に考える。そして、自分の課題を問う。子どもは**分類するすべ**を使って、自分の見付けた動きのこつ（既有的こつ）と友達の見付けた動きのこつ（新たに得たこつ）との共通点や相違点を整理し、相違点に自分の課題があるのではないかと気付く。そして、うまくなるためには、自分が見付けたこつとは違う友達の見付けたこつをまねしてみようと考え。

働き掛け4（2日目）

自分の課題を解決できそうな友達の見付けた「押す動き」「引く動き」のこつを試させ、そのこつを自己評価させる。

自分にぴったり合うかもしれない動きのこつを見付けようと投げ掛ける。子どもは、自分の見付けたこつとは違う友達の見付けたこつを友達から教わったり、掲示してある拡大した「動きのカルテ」からこつを選んだりしながら運動を行い、そのこつを◎○×の3段階で評価する。このようにして、自分に合いそうなこつを探す。

「動きのこつを選ぶ→試す→選び直す→試す」というように繰り返すことで、「自分にはこのくらいがちょうどいい」と、自分に合った動きのこつ（体や用具の動かし方、動かし方の程度を含めたこつ）を見いだす。

働き掛け5 (2日目)

動きを身に付けることができた理由を問う。

自分に合った動きのこつを見だし、動きを身に付けることができた実感させるために、再度、早さや距離などを測定させ、評価を伝える。そして、自分の伸びを実感した子どもに、動きを身に付けることができた理由を問う。動きを身に付けるまでの過程を振り返らせることで、友達の動きのこつを基にして自分の動きのこつを見いだすことよさに気付く。

以上のように、「動きのカルテ」により自分の体や用具の動かし方に着目し、友達の動きのこつと自分の動きのこつとを整理したり分析したりして自分に合ったこつを見いだす。そして、見いだした動きのこつに気を付けながら運動を繰り返す行うことで、「押す動き」「引く動き」を身に付けることができるようになる。これが、**自分に合った動きのこつを見だし、「押す動き」「引く動き」を身に付ける子どもの姿**である。

5 指導計画 全5時間 (15Q)

別紙「単元カード」参照

6 本時の構想<第1日目> 3/5時間 (45分授業)

(1) ねらい

「押す動き」「引く動き」を行う運動遊びを通して、自分の「押す動き」「引く動き」の動き方に着目し、「動きのこつ」を見付け、もっとうまくなるための自分の課題に気付くことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師の働き掛け																				
<p>1 レンジャーゾーンの準備をする。</p> <p>2 ペアやトリオでレンジャーゾーンでの運動遊びを行い、「動きのカルテ」に示された体の動かし方を運動しながら確かめる。</p> <div data-bbox="194 1106 780 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">図1・動きのカルテ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">【ひじ】</td> <td style="width: 20%;">のぼす</td> <td style="width: 20%;">まげる</td> <td style="width: 20%;">そのた()</td> </tr> <tr> <td>【ひじ】</td> <td>まっすぐ</td> <td>ななめに</td> <td>そのた()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>立てる</td> <td>かたむける</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【こし】</td> <td>のぼす</td> <td>まげる</td> <td>そのた()</td> </tr> <tr> <td>【あし】</td> <td>とじる</td> <td>ひろげる</td> <td>そのた()</td> </tr> </table> <p>そのほかのこつ</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div> <p>・私は、足を閉じた方がよい気がする。 ・僕は、Aさんと違って、足を広げた方がよいと思う。 ・私は、膝を曲げるとうまくいきそう。 ・僕は、ロープを握る位置を離れた方がうまくできるよ。</p> <p style="text-align: right;">☆比較するすべ</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> うまく力を入れるには、足を広げ、膝を曲げ、腕に力を入れるとうまくできそう。 </div> <p>3 動きのカルテで丸を付けたところやその他に発見した体の動かし方について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は、足を肩幅よりも広くしました。 ・私は、膝を軽く曲げて、腰を低くした方がよいと思う。 ・僕も同じです。 ・私は、腕に力を入れるとよかった。 ・付け足しで、腕だけでなく足にも力を入れたよ。 ・腰についていうか、重心を低くする。 </div>	【ひじ】	のぼす	まげる	そのた()	【ひじ】	まっすぐ	ななめに	そのた()		立てる	かたむける		【こし】	のぼす	まげる	そのた()	【あし】	とじる	ひろげる	そのた()	<p>○指示 「道具を運んで、レンジャーゾーンの準備をしよう」</p> <p>○発問 「どうしたらもっとうまくできるようになるでしょうか」 【働き掛け2】</p> <p>○指示 「その謎を探るために『動きのカルテ』を配ります。もっと記録を伸ばすには、足を閉じた方がよいでしょうか。それとも、開いた方がよいでしょうか。また、膝はどうでしょうか。さらに、力を入れる場所は体のどの部分でよいでしょうか。よいと思う方を丸で囲みましよう。別の方のところに書きましよう」</p> <p>○指示 「ワークシートの下の方にある四角には、上で書いたこと以外でうまく力を出すためにはこれが大切だと思う『こつ』を書きましよう」</p> <p>○指示 「拡大した『みんなのカルテ』に、自分のカルテと同じところにシールを貼ったり、他に見付けたこつを付箋に書いて貼ったりして、たくさんこつを見付けることができるかな」</p> <p>○指示 「ペアやトリオに分かれて、試してみましよう」</p> <p>○指示 「集合。もっとうまくなるために動きのカルテは書けたでしょうか。もつと力を出して押したり引いたりするためのこつを見付けましよう。あなだが気付いた、こつを教えてください」</p> <p>○発問 「足の位置は閉じるのと広げるのとでは、どちらがよいと思いましたか。それはなぜですか。どのくらいそうしたのですか」 【働き掛け3-①】</p>
【ひじ】	のぼす	まげる	そのた()																		
【ひじ】	まっすぐ	ななめに	そのた()																		
	立てる	かたむける																			
【こし】	のぼす	まげる	そのた()																		
【あし】	とじる	ひろげる	そのた()																		

- 4 「押す動き」のカルテと「引く動き」のカルテを見比べて、共通点や相違点を探す。
- ・膝を曲げるのがどちらもシールが多いよ。
 - ・足をも広げる方がシールが多い。
 - ・力を入れているところは、腕の人もあるし、足の人もある。バラバラだ。
 - ・両方とも、腕や足だけでなく、体全身に力を入れた方がよいのかな。

押す動きでも引く動きでも、共通したこつがありそうだ。

- 5 自分の見つけた動きのこつと友達の見つけた動きの共通点と相違点を探し、自分の課題に気付く。
- ・僕は、足を閉じていた。でも多くの方は、広げていた。僕がうまくできなかったのは、足を閉じていたせいなのか。
 - ・私、肩幅よりももっと広くした方が、強く押せたよ。
 - ・腰を低くするには腰を曲げるのではなく、膝を曲げるとよいのか。
 - ・足にも力を入れるのか。気付かなかったな。
 - ・重心を低くすればよいのか。だから、腰を低くするんだな。
 - ・多くの方が、僕と同じ考えだから、これが正しいのではないか。
 - ・〇〇さんは、私と違う意見だ。これは正しくないのか。これがうまくできない理由じゃないのか。試してみたいな。
 - ・もしかして、僕が気付かなかったあのやり方がうまくできるためのこつなんじゃないかな。まねしてみたい。

※ 多くの方が自分と同じ意見だ、自分は多くの人と違う意見だということが分かり、相違点と考える。

☆分類するすべ

もっとうまくするには、腕だけでなく、足にも力を入れること、姿勢を低くすることが大切なのかな。本当にそうなのか、試してみたいな。

※ 必要に応じて、体や用具の動かし方の具体的な姿を問い返す。

○指示「その他に書かれていることも教えてください」

※ 動き方を説明する際に必要があれば、実際の動きを表現させながら説明させる。

○発問「『押す動き』のカルテと『引く動き』のカルテを比べて、共通するこつは何ですか」

【働き掛け3-②】

○発問「友達の発表を聞いて、自分や友達が考えた発表と同じ意見と、自分や友達が考えた発表とは、どう違うか」

【働き掛け3-③】

○指示「その考えをワークシートに書きましょう」

(3) 評価

「押す動き」「引く動き」を行う運動遊びを通して、自分の「押す動き」「引く動き」の動き方に着目し、「動きのこつ」を見付け、もっとうまくするための自分の課題に気付くことができたかを、実際の動きの様子およびワークシートの記述により判断する。